

# 太田市の環境についてのアンケート調査結果

## 報告書

平成 28 年 6 月

太田市 産業環境部 環境政策課

## 1. アンケート調査の概要

### 1-1 調査の目的

市民や事業者の環境の満足度や課題、環境への意識や取組の状況などを把握し、「第2次太田市環境基本計画」の策定に際しての基礎的データを得ることを目的としました。

### 1-2 調査の設計

	調査対象	調査対象の抽出方法	調査方法	調査期間
市民	1,500名	住民基本台帳から無作為抽出	郵送配布 郵送回収	平成28年2月15日 ～2月29日
事業者	300事業所	事業者名簿等から抽出		

### 1-3 調査項目

	調査項目
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>①調査対象者の基本属性               <ul style="list-style-type: none"> <li>・性別、年齢、職業、住居形態、居住年数、居住地区</li> </ul> </li> <li>②市の環境について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の環境への満足度</li> <li>・改善すべき、また取り組むべき環境の課題</li> <li>・市の環境の将来あるべき姿</li> </ul> </li> <li>③普段の環境活動の状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関して、普段取り組んでいること</li> <li>・環境活動への参加状況</li> </ul> </li> <li>④地球温暖化対策の取組状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化の防止につながる取組行動の状況</li> <li>・省エネ設備機器等の導入状況</li> <li>・市が重点的に進めるべき地球温暖化対策</li> </ul> </li> <li>⑤市の環境への取組について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・市が進めている環境に関する取組の認知状況</li> <li>・市が重点的に進めるべき環境への対策</li> </ul> </li> </ul>
事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>①調査対象事業所の基本属性               <ul style="list-style-type: none"> <li>・業種、従業員規模、事業継続年数、所在地区</li> </ul> </li> <li>②環境活動の状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮のための活動の取組状況</li> <li>・環境配慮のための活動の状況（個別の活動の状況）</li> <li>・環境活動に取り組んだことで得られた効果</li> <li>・地域の環境のために取り組んでいること</li> <li>・環境活動に取り組む意義</li> <li>・環境活動を進めるにあたっての課題</li> </ul> </li> <li>③地球温暖化対策の取組状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ設備機器等の導入状況</li> <li>・市が重点的に進めるべき地球温暖化対策</li> </ul> </li> <li>④市の環境・市政について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の環境の将来あるべき姿</li> <li>・市が重点的に進めるべき環境への対策</li> <li>・事業所で環境活動を進めるために、行政が実施すると望ましいサポート等</li> </ul> </li> </ul>

#### 1-4 回収結果

	配布数	回収数	回収率※
市民	1,500	664	44.3%
事業者	300	155	51.6%

※回収率=回収数÷配布数

## 2. 市民アンケート調査結果

### 2-1 調査対象者の基本属性

#### 1) 性別

回答を得た 664 人の性別は、男性が 42.3%、女性が 56.6%です。

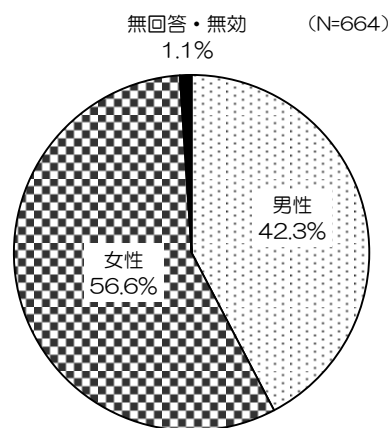


図 2-1-1 回答者の性別

#### 2) 年齢

回答を得た 664 人の年齢は、20代が 6.9%、30代が 13.3%、40代が 17.0%、50代が 16.1%、60代が 22.6%、70代以上が 23.2%です。

回答者の年齢は 70代以上が最も多く、次いで 60代となっており、これらの年齢層が全体の約半分を占めています。これらの年齢層が多くなったのは、対象者の抽出に際して、各世帯の「世帯主」を対象としたためと考えられます。

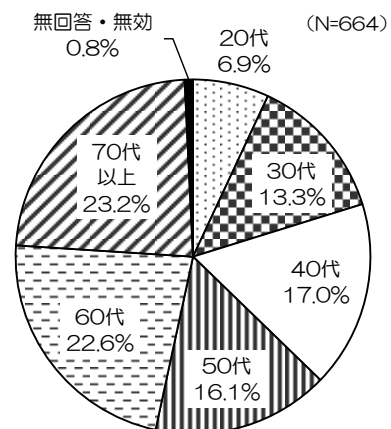


図 2-1-2 回答者の年齢

### 3) 職業

回答を得た 664 人の職業は、会社員・団体職員が 26.5%で最も比率が高く、次いで無職が 20.0%、主婦が 18.4%、パート・アルバイトが 15.5%などとなっています。

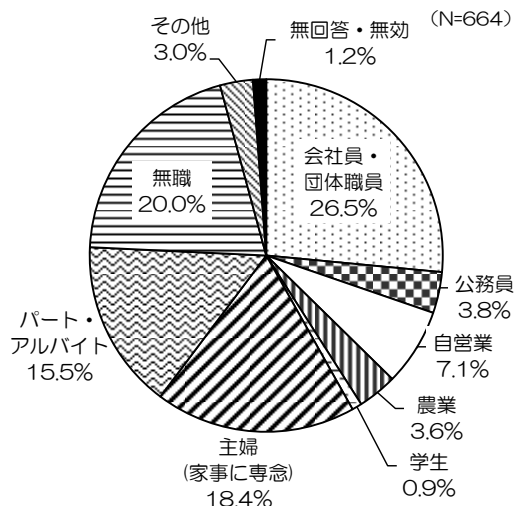


図 2-1-3 回答者の職業

### 4) 住居形態

回答を得た 664 人の住居形態は、一戸建て (持ち家) が 84.0%で最も比率が高く、次いで賃貸マンション・アパートが 8.4%、一戸建て (借家) が 3.0%などとなっています。

回答者のほとんどは一戸建て (持ち家) に住んでいます。

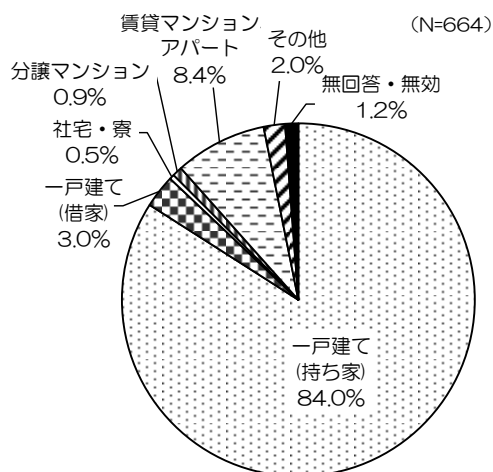


図 2-1-4 回答者の住居形態

### 5) 居住年数

回答を得た 664 人の太田市での居住年数は、30年以上が 63.1%で最も比率が高く、次いで 20~29年が 15.2%、10~19年が 11.1%などとなっています。

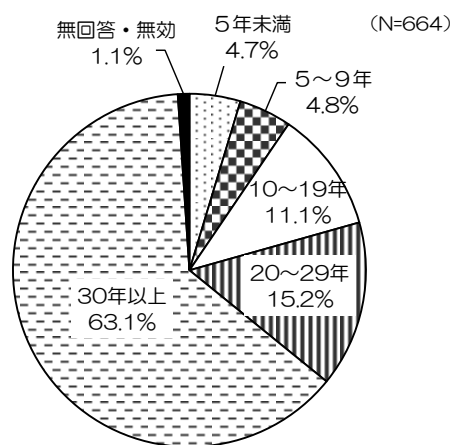


図 2-1-5 回答者の居住年数

## 6) 居住地区

回答を得た 664 人の居住地区は、宝泉地区が 13.3%で最も比率が高く、次いで九合地区が 12.3%、葦川地区が 10.2%、沢野地区が 9.6%、藪塚本町地区が 8.9%などとなっています。

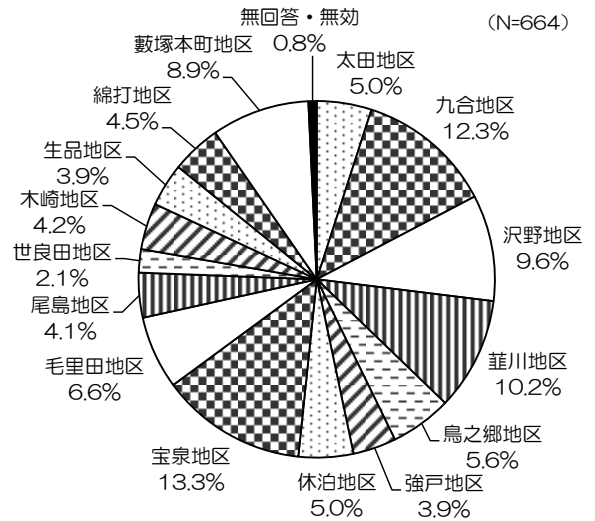


図 2-1-6 回答者の居住地区

表 2-1-1 地区別人口の比較 (市全体とアンケート調査結果)

単位:人

地区	全人口		アンケート	
	全人口	構成比	回答者数	構成比
合計	221,988	100.0%	664	100.0%
太田地区	10,859	4.9%	33	5.0%
九合地区	25,931	11.7%	82	12.3%
沢野地区	23,771	10.7%	64	9.6%
葦川地区	21,307	9.6%	68	10.2%
鳥之郷地区	13,662	6.2%	37	5.6%
強戸地区	7,930	3.6%	26	3.9%
休泊地区	12,255	5.5%	33	5.0%
宝泉地区	27,696	12.5%	88	13.3%
毛里田地区	12,751	5.7%	44	6.6%
尾島地区	8,799	4.0%	27	4.1%
世良田地区	5,200	2.3%	14	2.1%
木崎地区	9,864	4.4%	28	4.2%
生品地区	10,110	4.6%	26	3.9%
綿打地区	10,131	4.6%	30	4.5%
藪塚本町地区	21,722	9.8%	59	8.9%
無回答	-	-	5	0.8%

※全人口は平成 26 年 10 月 1 日現在 (「統計おおた 平成 27 年版」より)

## 2-2 市の環境について

### 1) 地域の環境への満足度

アンケートで調査した環境項目について最も多かった回答は「普通」であり、ほとんどの項目において回答者の50%前後又はそれ以上が該当します。

居住地区の環境について、満足度の高いもの（満足・やや満足の合計が30%前後又はそれ以上）は以下のとおりです。

- ・ まちの静けさ（満足度 32.8%）
- ・ 空気のきれいさ、さわやかさ（同 28.8%）
- ・ 買物や交通の便利さ（同 27.6%）
- ・ 公園や街路樹などのまちの緑の豊かさ（同 26.2%）

これに対し、不満度の高いもの（不満・やや不満の合計が30%前後又はそれ以上）は以下のとおりです。

- ・ 買物や交通の便利さ（不満度 35.4%）
- ・ 道路交通量の多さ（同 32.4%）
- ・ ごみの散乱がないなど、周辺のきれいさ（同 28.9%）
- ・ 環境について学ぶ機会の多さ（同 28.9%）
- ・ 川や水路などの水のきれいさ（同 27.3%）
- ・ におい（悪臭）がしないこと（同 27.1%）

これらの項目のうち「買物や交通の便利さ」は、満足度・不満度の両方が高いことから、居住地による差が大きい可能性が考えられます。他については、概ね満足度の高いものは不満度が低く、不満度の高いものは満足度が低くなっています。

(N=664)

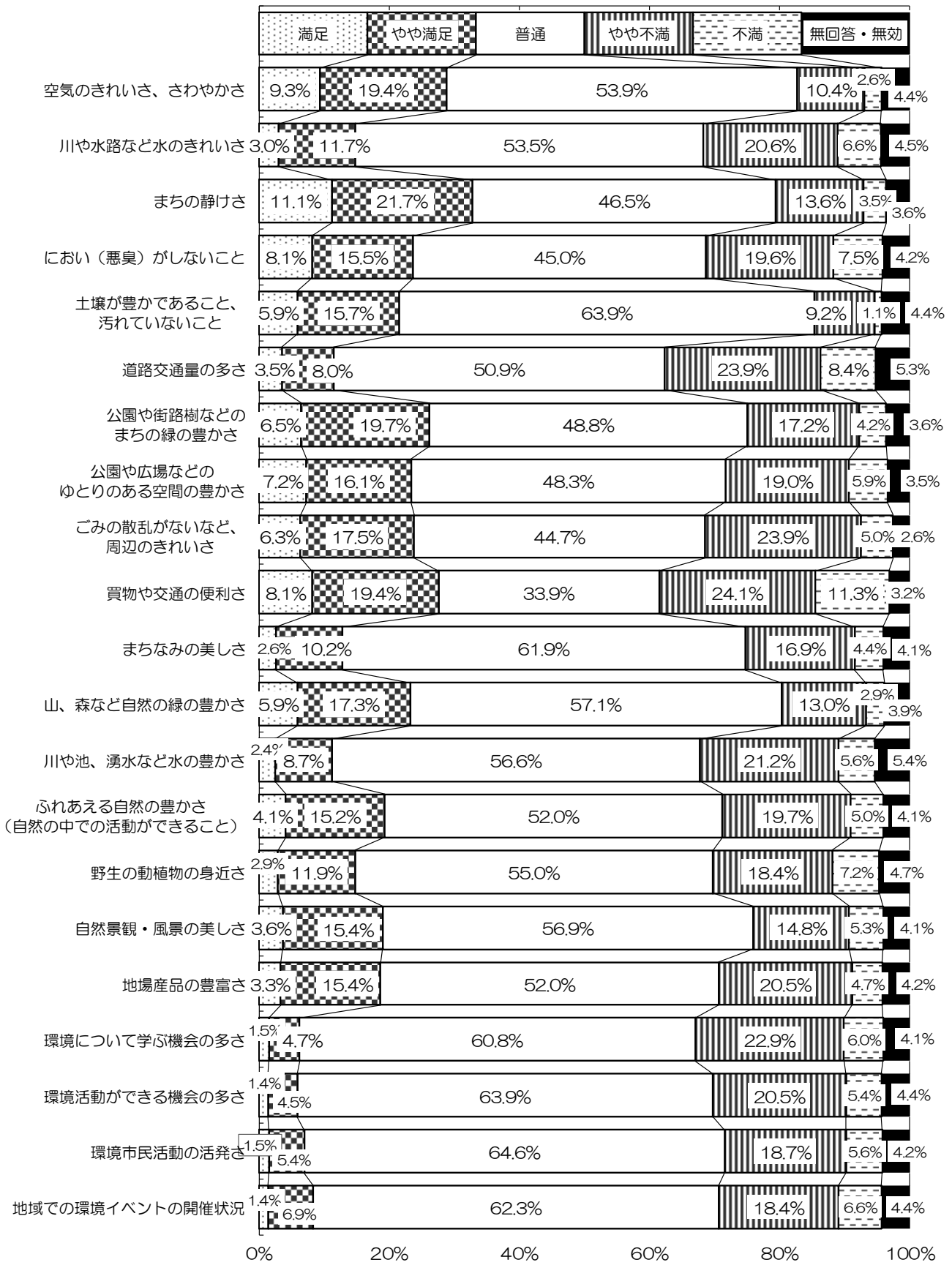
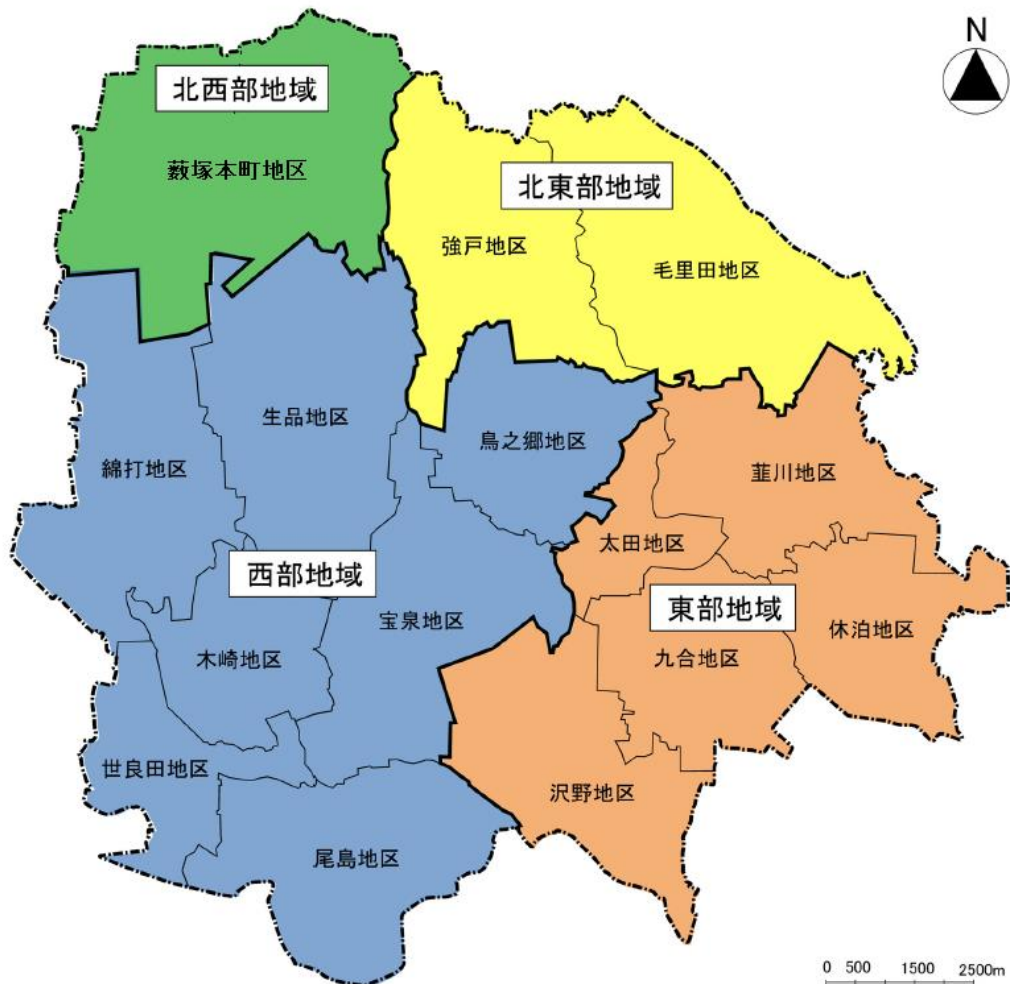


図 2-2-1 地域の環境への満足度

環境への満足度の高いもの（満足・やや満足の合計が 30%前後又はそれ以上）を居住地区別にみると、全体平均よりも満足度が高い地区は以下のとおりです。

表 2-2-1 環境への満足度の高い地区

満足度の高い環境項目	満足度の高い地区
まちの静けさ	綿打地区、世良田地区、強戸地区
空気のきれいさ、さわやかさ	休泊地区、強戸地区、尾島地区
買物や交通の便利さ	九合地区、休泊地区、太田地区
公園や街路樹などのまちの緑の豊かさ	綿打地区、世良田地区





環境への不満度の高いもの（不満・やや不満の合計が 30%前後又はそれ以上）を居住地区別にみると、全体平均よりも不満度が高い地区は以下のとおりです。

表 2-2-2 環境への不満度の高い地区

不満度の高い環境項目	不満度の高い地区
買物や交通の便利さ	綿打地区、毛里田地区、世良田地区、強戸地区、木崎地区、尾島地区、沢野地区
道路交通量の多さ	九合地区、葦川地区
ごみの散乱がないなど、周辺のきれいさ	九合地区
環境について学ぶ機会の多さ	九合地区、強戸地区
川や水路などの水のきれいさ	沢野地区、宝泉地区、九合地区、太田地区
におい（悪臭）がしないこと	生品地区、藪塚本町地区、綿打地区、鳥之郷地区

不満度について、全体平均を基準とした場合の超過率を地区別にみると、概して特定の環境項目への不満は、特定の地域で突出して高くなっていることが多くなっていました。

具体的には、『空気のきれいさ、さわやかさ』、『におい（悪臭）がしないこと』への不満度は、生品地区、綿打地区、藪塚本町地区などで高くなっています。

『山、森など自然の緑の豊かさ』、『川や池、湧水など水の豊かさ』、『ふれあえる自然の豊かさ』、『野生の動植物の身近さ』、『自然景観・風景の美しさ』など、自然関連の環境項目への不満度は、九合地区で高くなっています。また、九合地区は『道路交通量の多さ』への不満度も高くなっています。

『環境活動ができる機会の多さ』、『環境市民活動の活発さ』など環境活動への不満度は、太田地区と九合地区で高くなっています。また、これらの地区は『まちの静けさ』への不満度も高くなっています。

不満度の高い環境項目については、地域的な課題として特定の対策に重点的に取り組むことにより、効果的・効率的に環境改善を図りたいと考えております。

## 2) 改善すべき、また取り組むべき環境の課題

居住地区の環境について改善の要望が多い課題（回答率 25%以上）は以下のとおりです。

- ・ 空き缶、吸いがらなどのポイ捨て (46.4%)
- ・ ごみの不法投棄 (38.7%)
- ・ まちなかの公園や自然が少ない (25.9%)
- ・ 自動車からの排気ガスや騒音・振動 (25.2%)

改善の要望は、概ね現状において不満度の高い項目に対するものとなっています。

公園や自然については、現状においては満足度と不満度がほぼ拮抗していますが、改善を望んでいる市民が多いと考えられます。

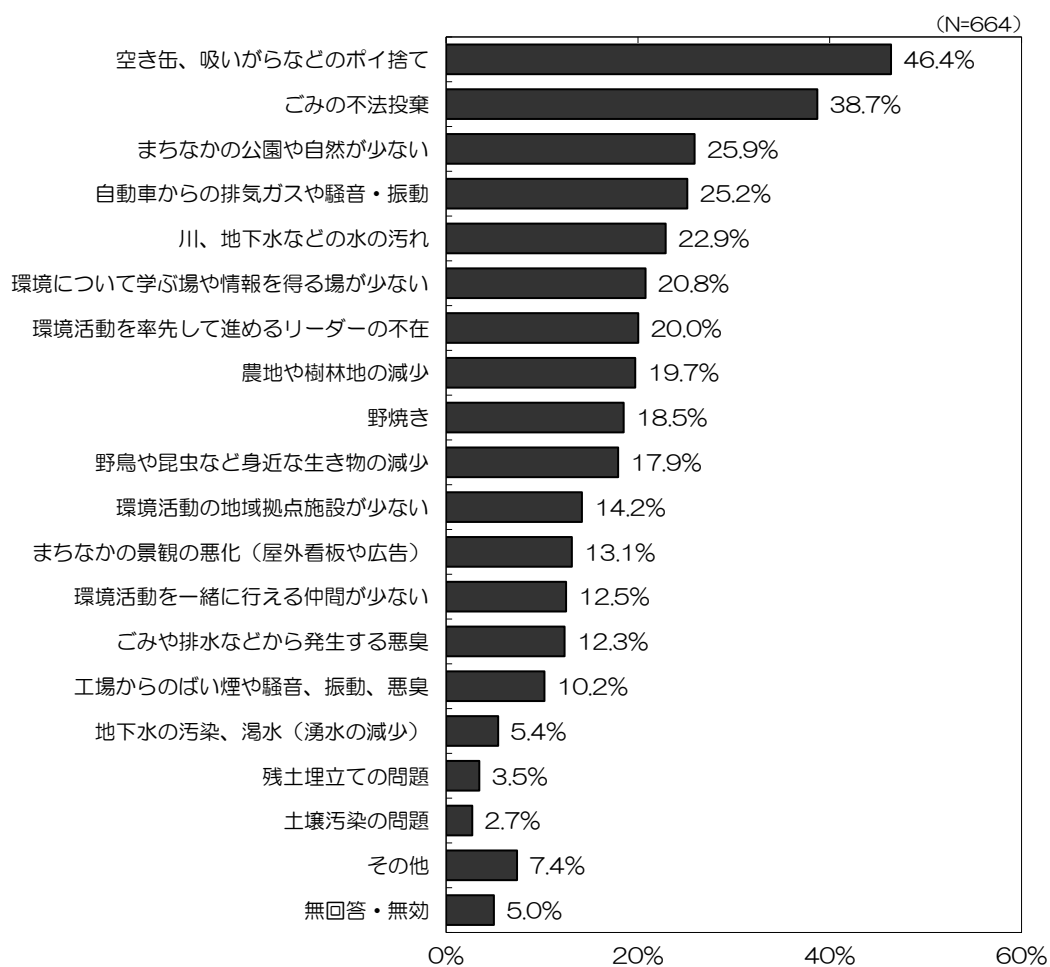


図 2-2-2 改善すべき、また取り組むべき環境の課題

改善への要望が多い環境の課題を居住地区別にみると、要望が多い地区は以下のとおりです。

表 2-2-3 改善への要望が多い地区

改善への要望が多い環境の課題	改善への要望が多い地区
空き缶、吸いがらなどのポイ捨て	綿打地区、木崎地区、世良田地区、太田地区
ごみの不法投棄	強戸地区、綿打地区、鳥之郷地区、沢野地区
まちなかの公園や自然が少ない	藪塚本町地区、休泊地区、沢野地区、菰川地区
自動車からの排気ガスや騒音・振動	太田地区、休泊地区、菰川地区、九合地区

### 3) 市の環境の将来あるべき姿

太田市の将来あるべき環境として要望が多いもの（回答率 30%以上）は以下のとおりです。

- ・ まちなかにごみがなく、きれいなまち (52.1%)
- ・ 自然や緑が豊かなまち (46.5%)
- ・ 空気がきれいなまち (42.8%)
- ・ まちなかの景観がきれいで統一がとれたまち (31.8%)
- ・ 美しい川、水が豊かに流れるまち (30.0%)

ごみ問題への要望に加え、自然や緑への要望が多くなっています。自然や緑については、現状においては満足度と不満度がほぼ拮抗していますが、将来においては自然が多く残されていることや自然とのふれあう場所・機会が多くあることを望んでいる市民が多いと考えられます。

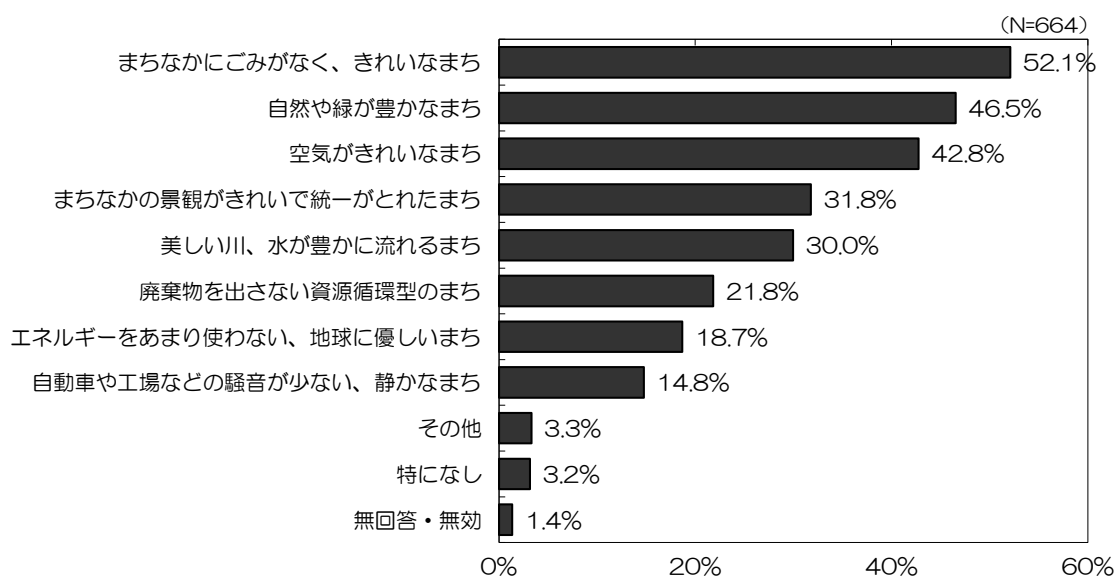


図 2-2-3 市の環境の将来あるべき姿

将来あるべき姿として要望が多いものを居住地区別にみると、要望の多い地区は以下のとおりです。

表 2-2-4 将来あるべき姿への要望の多い地区

将来あるべき姿として要望が多いもの	要望の多い地区
まちなかにごみがなく、きれいなまち	九合地区、生品地区、強戸地区、太田地区
自然や緑が豊かなまち	太田地区、藪塚本町地区、宝泉地区、蕪川地区、強戸地区、毛里田地区
空気がきれいなまち	世良田地区、木崎地区、生品地区、藪塚本町地区
まちなかの景観がきれいで統一がとれたまち	休泊地区、太田地区、九合地区、宝泉地区
美しい川、水が豊かに流れるまち	強戸地区、尾島地区、宝泉地区、太田地区

## 2-3 普段の環境活動の状況

### 1) 環境に関して、普段取り組んでいること

普段自ら取り組んでいる環境活動（個人での取組：実践率50%以上）は以下のとおりであり、ごみや省エネに関する取組が多くなっています。

- ・ 空き缶やびん、ペットボトル、雑紙などごみの分別活動（87.0%）
- ・ こまめな消灯や冷暖房の温度設定の管理などの節電活動（77.7%）
- ・ 油や調理くずなどを下水に流さないよう、家庭排水への配慮（66.0%）
- ・ 出かけたときは、ごみを持ち帰る（60.1%）

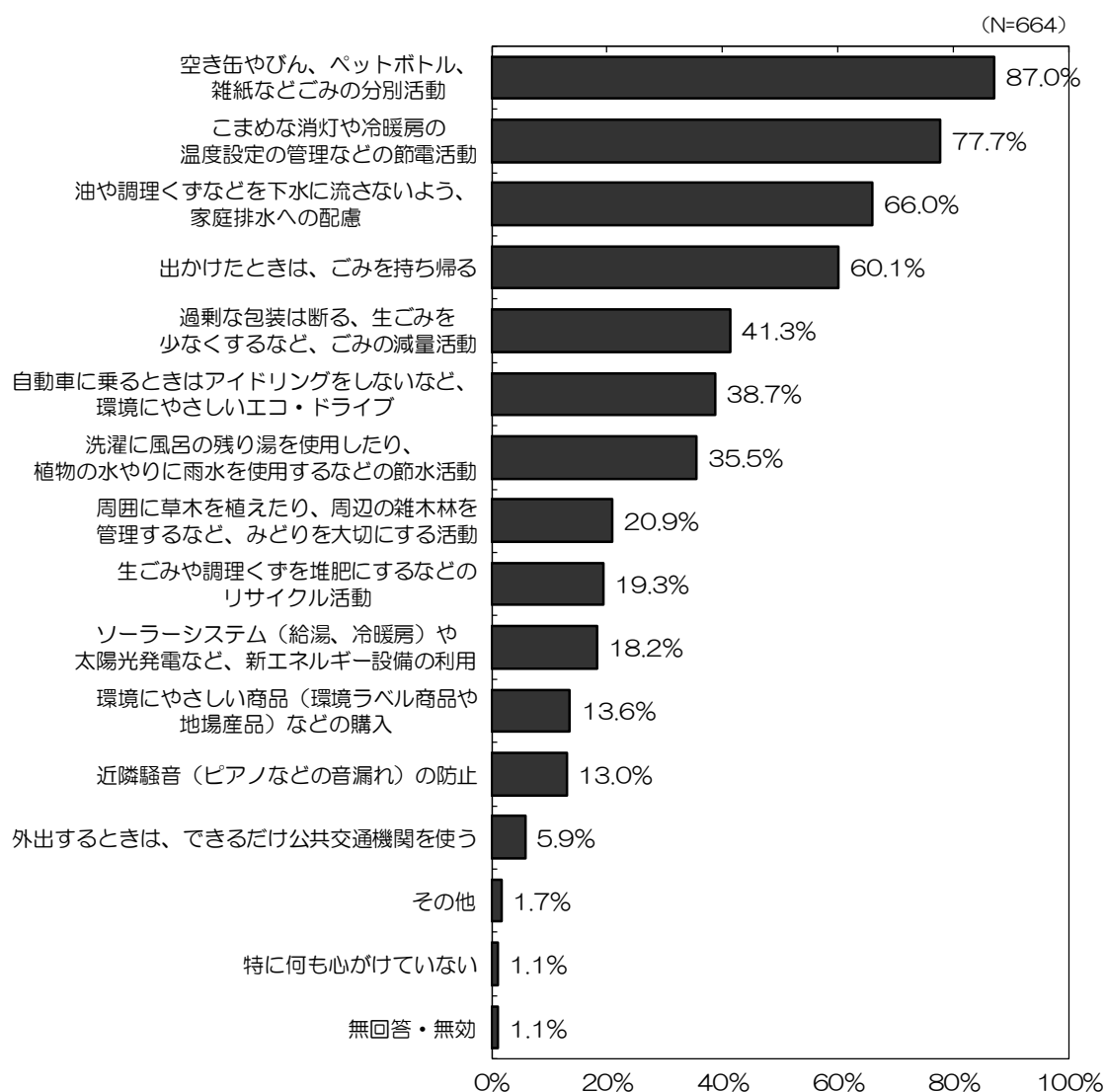


図 2-3-1 環境に関して、普段取り組んでいること

## 2) 環境活動への参加状況

これまでに参加したことがある環境活動（地域での取組：参加率50%以上）は以下のとおりであり、ごみに関する取組が多くなっています。

- ・空き缶、空きびん、古紙などの資源回収活動（70.9%）
- ・公園や街路などの地域清掃活動（67.8%）

資源回収活動や地域清掃活動は、市が毎年度実施している取組であるため、参加する市民が多いと考えられます。また、資源回収活動や地域清掃活動は、特定の地区において「参加したことがある」の回答が多くなることは確認されませんでした。

これに対し、他の環境活動（花いっぱい運動や植樹などの地域の緑化活動、川や池、湧水地などの清掃活動、農業体験など農業振興活動、昆虫や植物など身近な自然の保護活動や観察、環境問題に関する講座やセミナー）への参加状況は、強戸地区において、他地区よりも「参加したことがある」の回答が多くなっています。

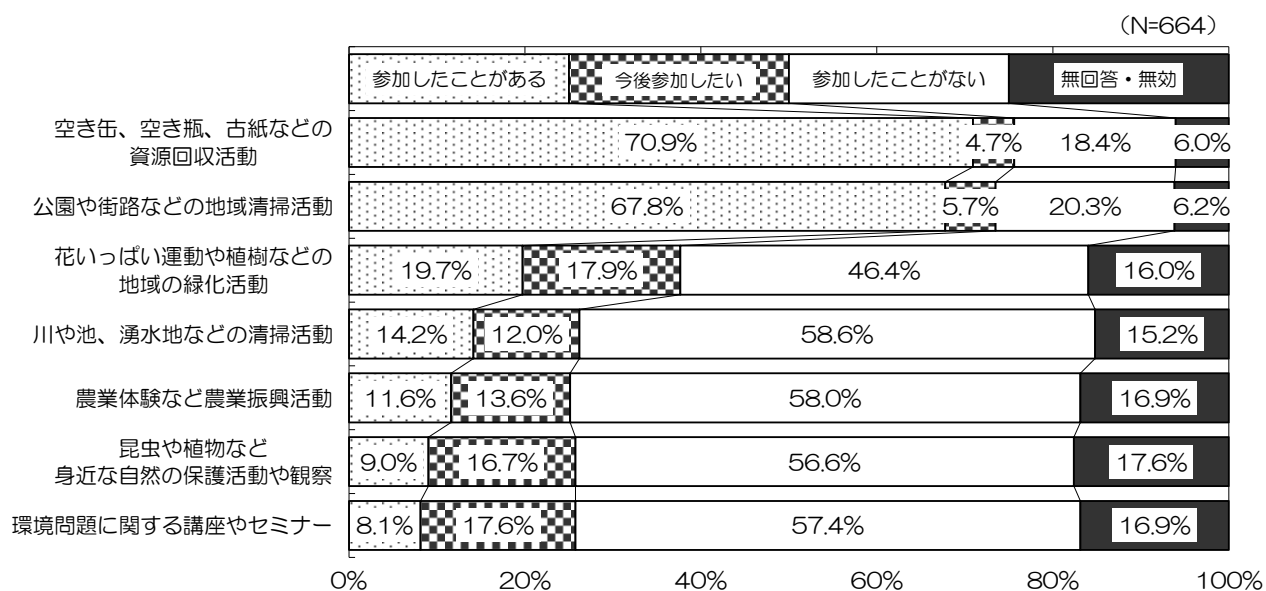


図 2-3-2 環境活動への参加状況

## 2-4 地球温暖化対策の取組状況

### 1) 地球温暖化の防止につながる取組行動の状況

回答者のほとんど（約90%）は、省エネやごみ減量など何らかの地球温暖化防止の取組を実践しています。特に何も取り組んでいない人は7.7%であり、その理由は生活習慣を変えにくいためというものが多くなっています。

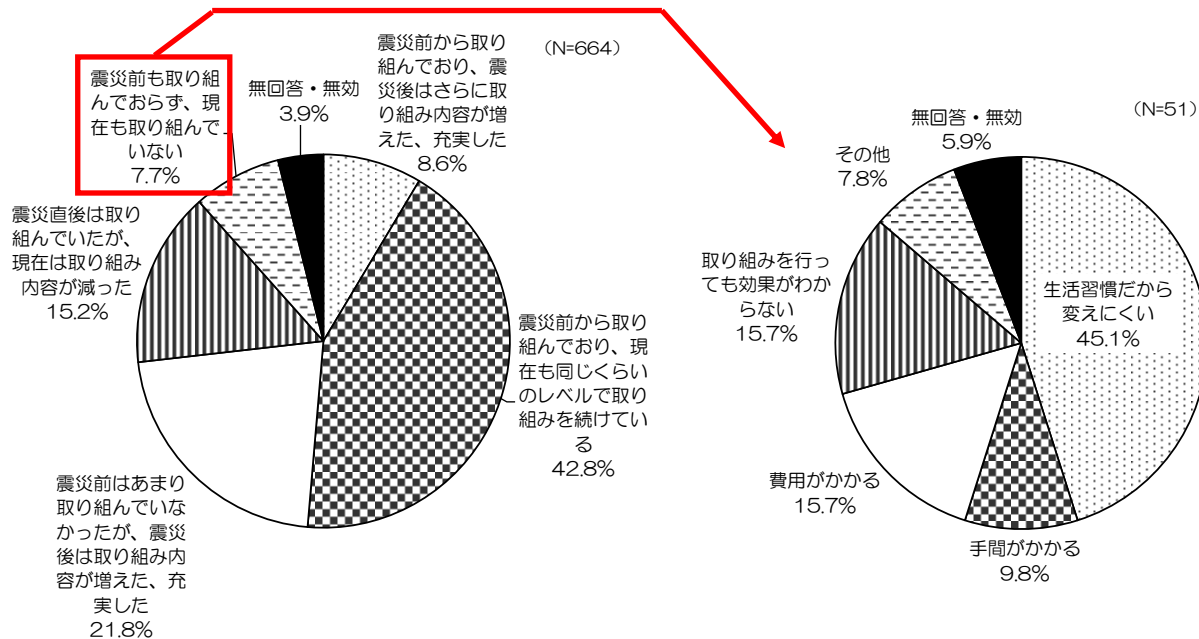


図 2-4-1 地球温暖化の防止につながる取組行動の状況

## 2) 省エネ設備機器等の導入状況

省エネ設備等の導入状況は、照明をLEDなどの高効率なものに買い替える以外は、導入済みが30%未満となっています。省エネ設備等への関心は高いことから、何らかの理由により導入できないでいると考えられます。

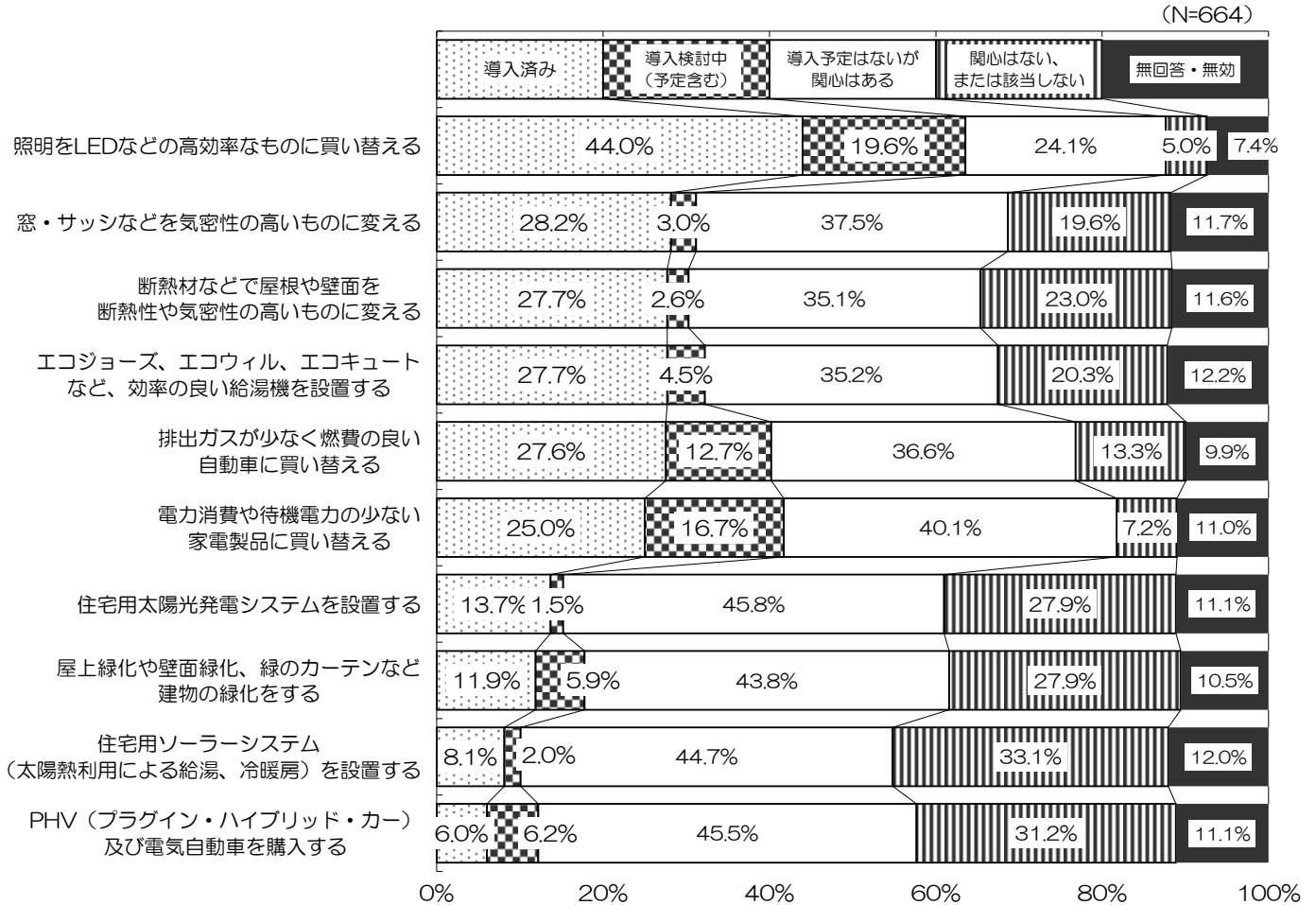


図 2-4-2 省エネ設備機器等の導入状況

### 3) 市が重点的に進めるべき地球温暖化対策

市が重点的に進めるべき地球温暖化対策として要望が多いもの（回答率 30%以上）は以下のとおりであり、交通に関する取組が多くなっています。

- ・ バスなどの公共交通機関の整備や利用を促進するための仕組みの充実（38.1%）
- ・ 自転車の走行環境の整備（36.7%）
- ・ 渋滞解消など自動車交通を円滑にするための道路整備（33.6%）
- ・ 住宅への太陽光発電設備や省エネ機器などの導入に対する助成等の充実（31.6%）
- ・ ごみの減量・資源化の推進（30.7%）

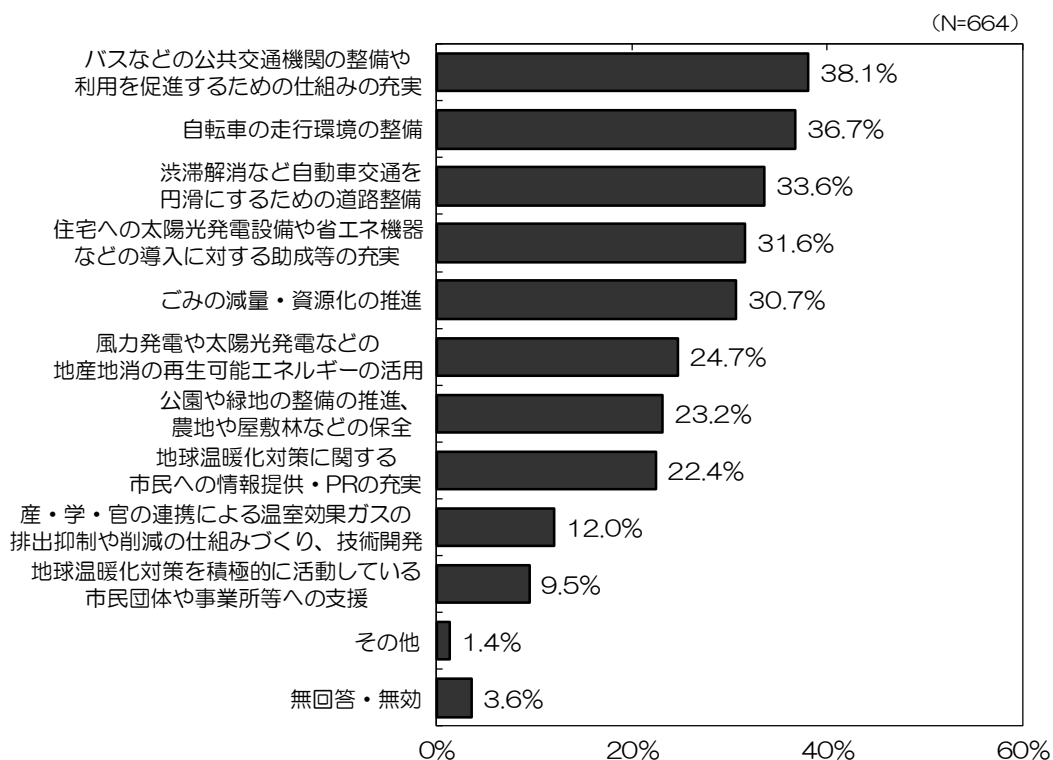


図 2-4-3 市が重点的に進めるべき地球温暖化対策

要望が多い地球温暖化対策を居住地区別にみると、要望の多い地区は以下のとおりです。

表 2-4-1 地球温暖化対策への要望の多い地区

要望が多い地球温暖化対策	要望の多い地区
バスなどの公共交通機関の整備や利用を促進するための仕組みの充実	綿打地区、強戸地区、鳥之郷地区、休泊地区
自転車の走行環境の整備	宝泉地区、太田地区、生品地区、綿打地区
渋滞解消など自動車交通を円滑にするための道路整備	毛里田地区、葦川地区、宝泉地区、強戸地区
住宅への太陽光発電設備や省エネ機器などの導入に対する助成等の充実	尾島地区、世良田地区、宝泉地区、生品地区
ごみの減量・資源化の推進	強戸地区、生品地区、尾島地区、九合地区



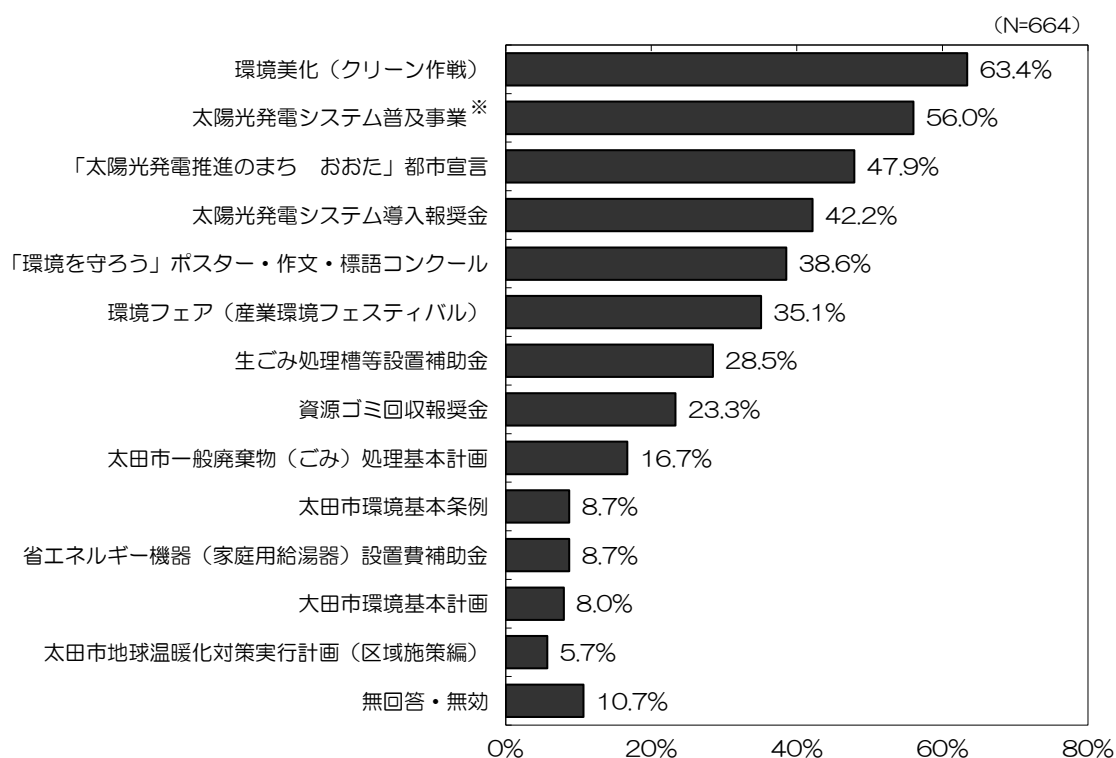
## 2-5 市の環境への取組について

### 1) 市が進めている環境に関する取組の認知状況

市が進めている環境に関する取組のうち認知度が高いもの（回答率40%以上）は以下のとおりであり、環境美化（クリーン作戦）のほかは、太陽光発電に関する取組の認知度が高くなっています。

- ・環境美化（クリーン作戦）（63.4%）
- ・太陽光発電システム普及事業（56.0%）
- ・「太陽光発電推進のまち おおた」都市宣言（47.9%）
- ・太陽光発電システム導入報奨金（42.2%）

これらの取組のうち、「環境美化（クリーン作戦）」は、市が市民との協働により毎年度実施しているものであり、市民の間での認知度の高さが、前述の地域清掃活動へ参加する市民が多いことにつながっていると考えられます。



※太陽光発電事業：メガソーラー事業、北部運動公園太陽光発電システムなど

図 2-5-1 市が進めている環境に関する取組の認知状況

## 2) 市が重点的に進めるべき環境への対策

市が重点的に進めるべき取組として要望の高いもの（回答率 20%以上）は以下のとおりであり、ごみに関する取組が多くなっています。

- ・ **ごみの不法投棄対策 (35.4%)**
- ・ **ごみの減量・分別やリサイクルの推進 (27.9%)**
- ・ **まちの緑化の推進 (26.4%)**
- ・ **太陽光や風力など再生可能エネルギーの活用推進 (21.7%)**
- ・ **まちの美化推進 (21.4%)**

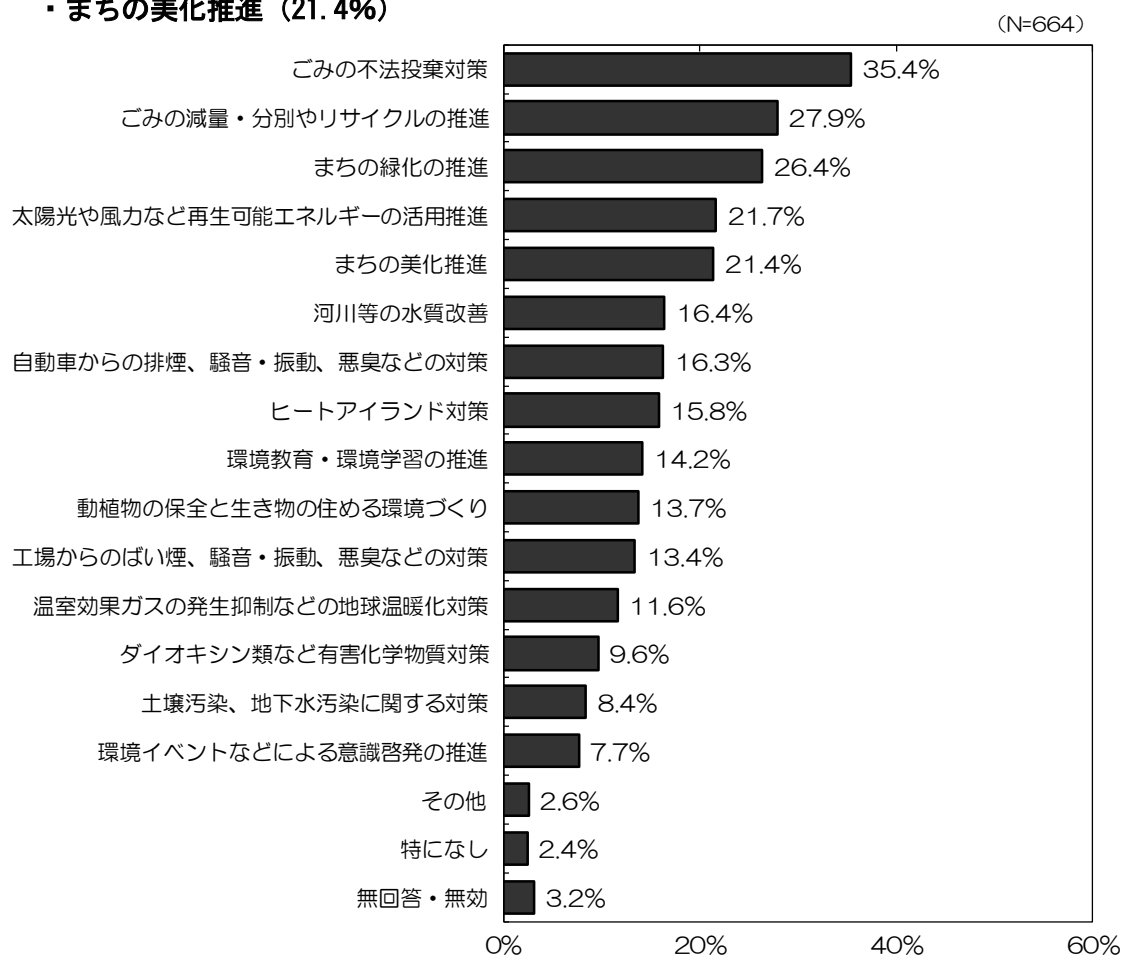


図 2-5-2 市が重点的に進めるべき環境への対策

要望が多い環境対策を居住地区別にみると、要望の多い地区は以下のとおりです。

表 2-5-1 環境対策への要望の多い地区

要望が多い環境対策	要望の多い地区
ごみの不法投棄対策	綿打地区、強戸地区、世良田地区、沢野地区
ごみの減量・分別やリサイクルの推進	尾島地区、鳥之郷地区、綿打地区、毛里田地区
まちの緑化の推進	強戸地区、太田地区、九合地区、休泊地区
太陽光や風力など再生可能エネルギーの活用推進	毛里田地区、世良田地区、葦川地区、藪塚本町地区
まちの美化推進	太田地区、強戸地区、九合地区、綿打地区

## 2-6 市民アンケートのまとめ

市域の環境については、ポイ捨てや不法投棄などごみに関する問題の改善を希望する回答が多く、このほか、水がきれいさ・豊かさや悪臭対策など生活環境の改善や、環境学習や環境活動の機会の少なさの改善が求められています。

太田市としては、市域全体の課題として取り組むべきものと、地域的な課題として取り組むべきものに区分して、効果的・効率的に改善を図りたいと考えております。

アンケート回答者の環境への意識と行動は概ね高い水準にあり、ごみの分別や省エネなどの個人での取組については、既に実践している人が多くなっています。これに対し、地域で行われる取組（環境活動）については、資源回収活動や地域清掃活動以外は参加率が高くありません。これらの取組は、市民と行政の協働により実施しているものですが、他の取組についても市民の認知度や参加状況の向上に努めて行きたいと考えております。

### 3. 事業者アンケート調査結果

#### 3-1 調査対象事業所の基本属性

##### 1) 業種

回答を得た 155 事業所の業種は、製造業が 52.3% で最も比率が高く、次いで建設業が 16.8%、卸売・小売業が 8.4%、サービス業が 5.8%、運輸業が 3.9%、飲食店・宿泊業が 3.2% などとなっています。

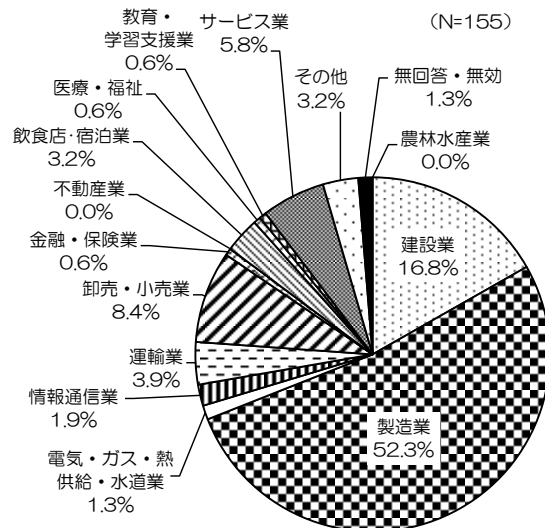


図 3-1-1 回答事業所の業種

##### 2) 従業員規模

回答を得た 155 事業所の従業員規模は、10~49 人が 43.2% で最も比率が高く、次いで 50~99 人が 20.0%、100~299 人が 18.1%、10 人未満が 13.5% などとなっています。

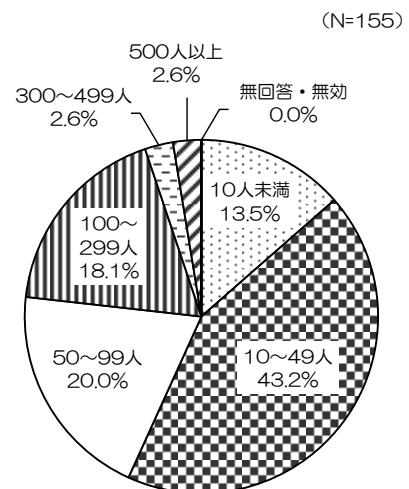


図 3-1-2 回答事業所の従業員規模

※市内の全事業所を対象として無作為抽出を行うと、ほとんどが零細事業所となります。エネルギー消費量やごみ排出量など、環境への負荷は大規模事業所ほど大きいため、アンケート調査に際しては、環境への負荷が大きいと考えられる属性の事業所を優先して抽出しました。

- ・業種 : 製造業を優先して抽出
- ・従業員規模 : 従業員数の多い事業所を優先して抽出

### 3) 事業継続年数

回答を得た 155 事業所の事業継続年数は、30 年以上が 58.7% で最も比率が高く、次いで 20～29 年が 16.8%、10～19 年が 14.8%、5～9 年が 8.4%、5 年未満が 1.3% となっています。

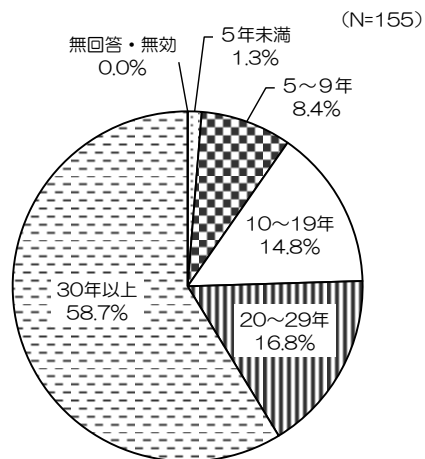


図 3-1-3 回答事業所の事業継続年数

### 4) 所在地区

回答を得た 155 事業所の所在地区は、宝泉地区が 17.4% で最も比率が高く、次いで生品地区が 13.5%、九合地区が 12.3%、沢野地区、葦川地区、藪塚本町地区がいずれも 7.7% となっています。

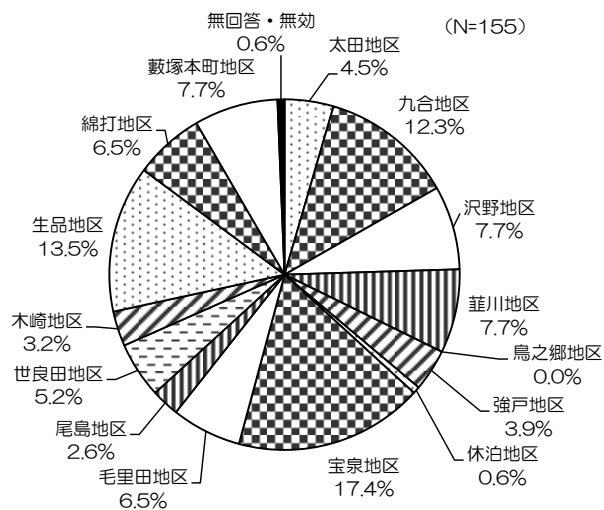
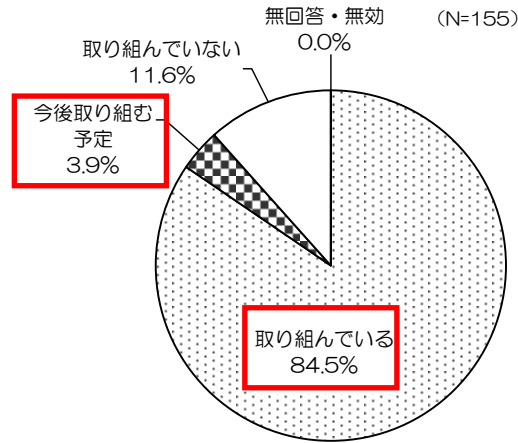


図 3-1-4 回答事業所の所在地区

### 3-2 環境活動の状況

#### 1) 環境配慮のための活動の取組状況

回答事業所の多くは環境配慮のための活動を実践しています（実践率 84.5%）。  
事業所における環境配慮のための活動の実施状況は高い水準にあります。



注. 環境配慮のための活動について、①取り組んでいる、②今後取り組む予定の事業所を対象として、次の質問を行いました。これらの結果を 20～23 ページに示します。

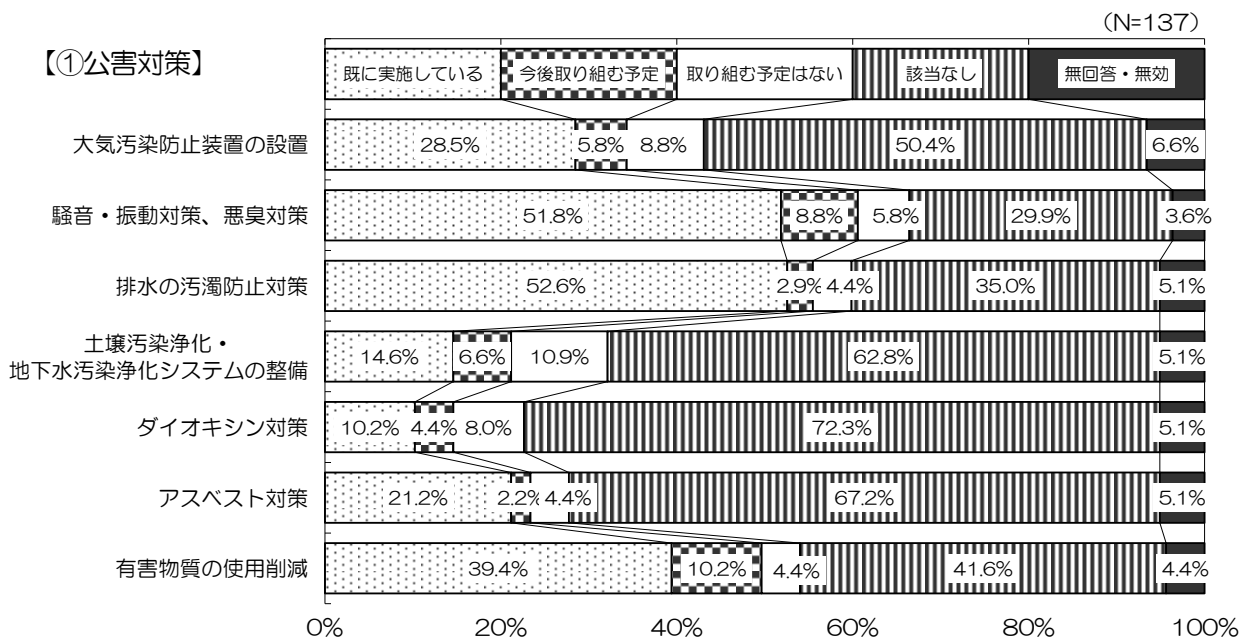
- (1) 環境配慮のための活動の状況（個別の活動の状況）：20～22 ページ
- (2) 環境活動に取り組んだことで得られた効果：23 ページ

図 3-2-1 環境配慮のための活動の取組状況

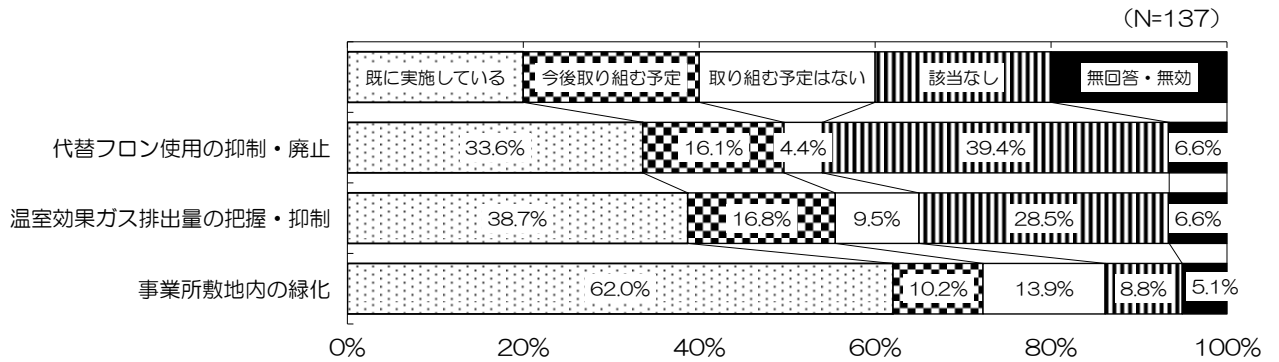
#### 2) 環境配慮のための活動の状況（個別の活動の状況）

事業所における具体的な取組についてみると、①公害対策、②地球環境問題対策、③廃棄物の減量やリサイクルの推進、④省エネルギー・省資源に関する取組は、事業所に該当しない場合を除くと、多くが「既の実施している」、又は「今後取り組む予定」となっています。

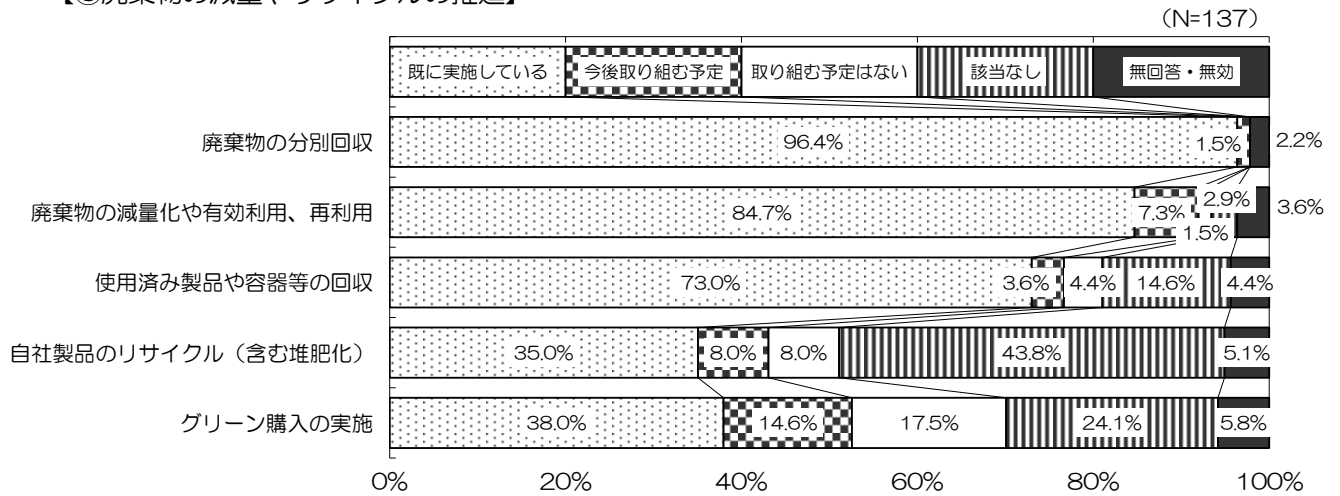
また、⑤環境マネジメントシステムや製品開発に関する取組は、①～④の取組と比較して、概して「取り組む予定がない」とする割合が高くなっています。



【②地球環境問題対策】



【③廃棄物の減量やリサイクルの推進】

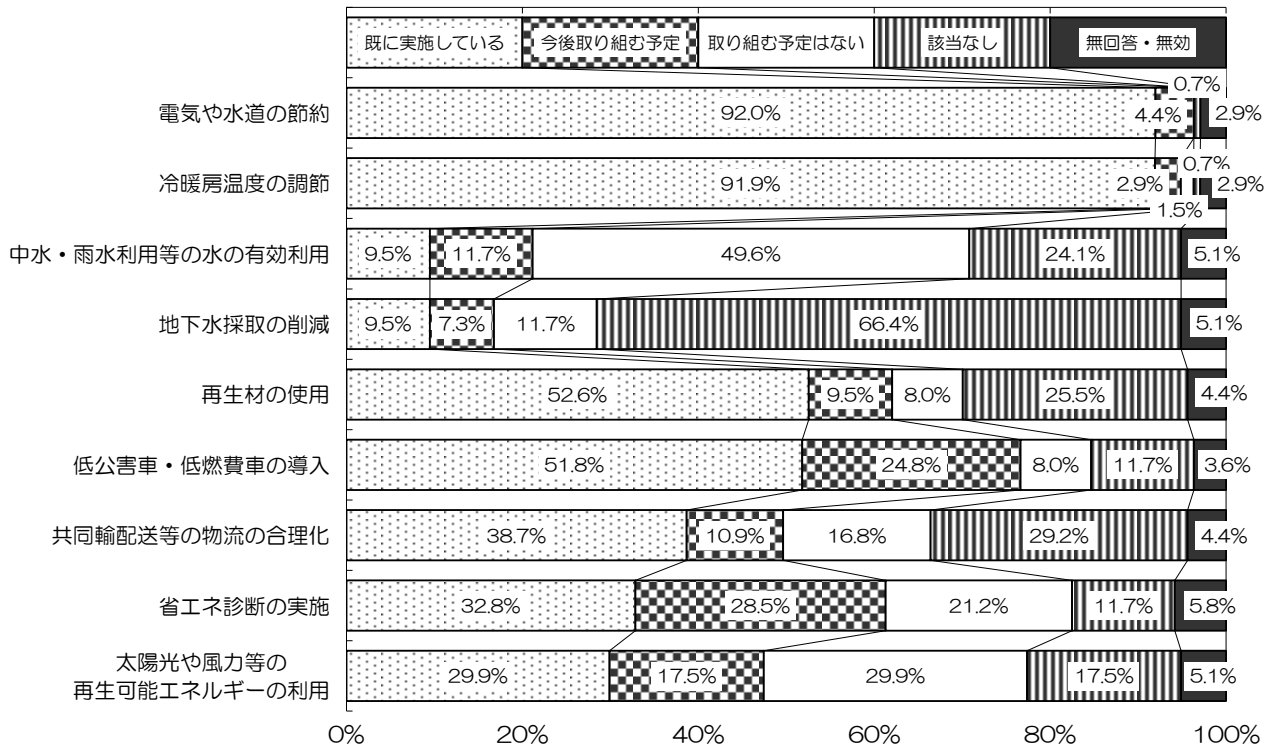


注. 1) で調査した環境配慮のための活動について、①取り組んでいる、②今後取り組む予定の事業所を対象として調査したものです（調査対象事業所数は137事業所です）。

図 3-2-2(1) 環境配慮のための活動の状況（個別の活動の状況）

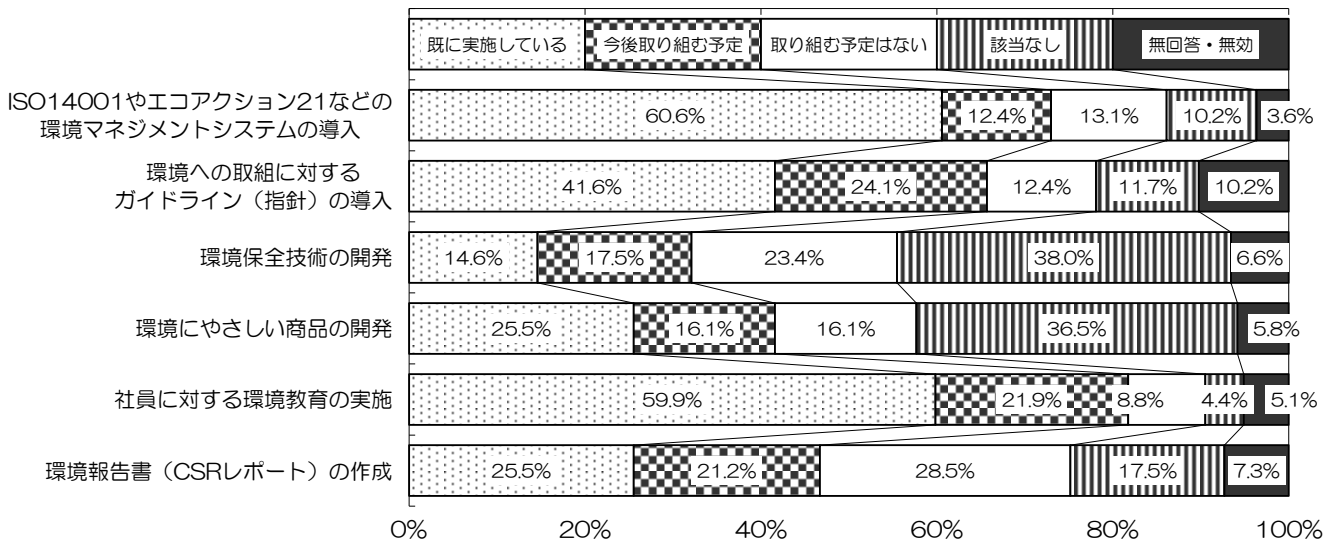
【④省エネルギー・省資源】

(N=137)



【⑤環境マネジメントシステムや製品開発】

(N=137)



注. 1) で調査した環境配慮のための活動について、①取り組んでいる、②今後取り組む予定の事業所を対象として調査したものです（調査対象事業所数は137事業所です）。

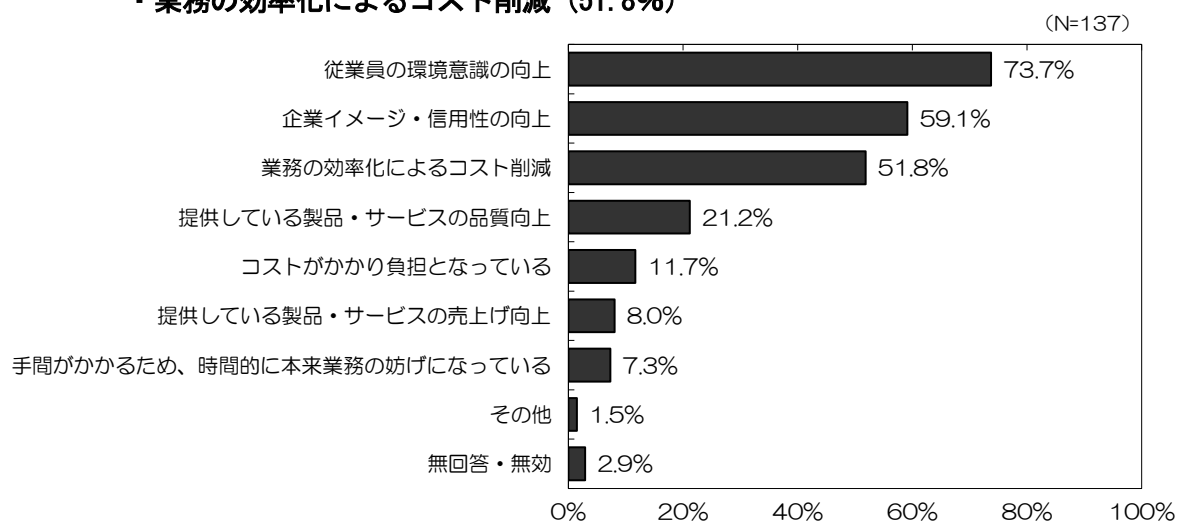
図 3-2-2 (2) 環境配慮のための活動の状況（個別の活動の状況）



### 3) 環境活動に取り組んだことで得られた効果

環境活動に取り組んだことで得られた効果（回答率 50%以上）は以下のとおりであり、過半数の事業所で実際にコストの削減効果が得られたことが特徴です。

- ・ 従業員の環境意識の向上（73.7%）
- ・ 企業イメージ・信用性の向上（59.1%）
- ・ 業務の効率化によるコスト削減（51.8%）



注. 20 ページの 1) で調査した環境配慮のための活動について、①取り組んでいる、②今後取り組む予定の事業所を対象として調査したものです（調査対象事業所数は 137 事業所です）。

図 3-2-3 環境活動に取り組んだことで得られた効果

### 4) 地域の環境のために取り組んでいること

地域社会の中でこれまでに参加したことのある環境活動（回答率 30%以上）は以下のとおりであり、ごみに関する活動が多くなっています。

- ・ 事業所周辺の清掃活動（64.5%）
- ・ 事業所の緑化活動（42.6%）
- ・ 地域の清掃活動や美化活動への参加・協力（32.3%）

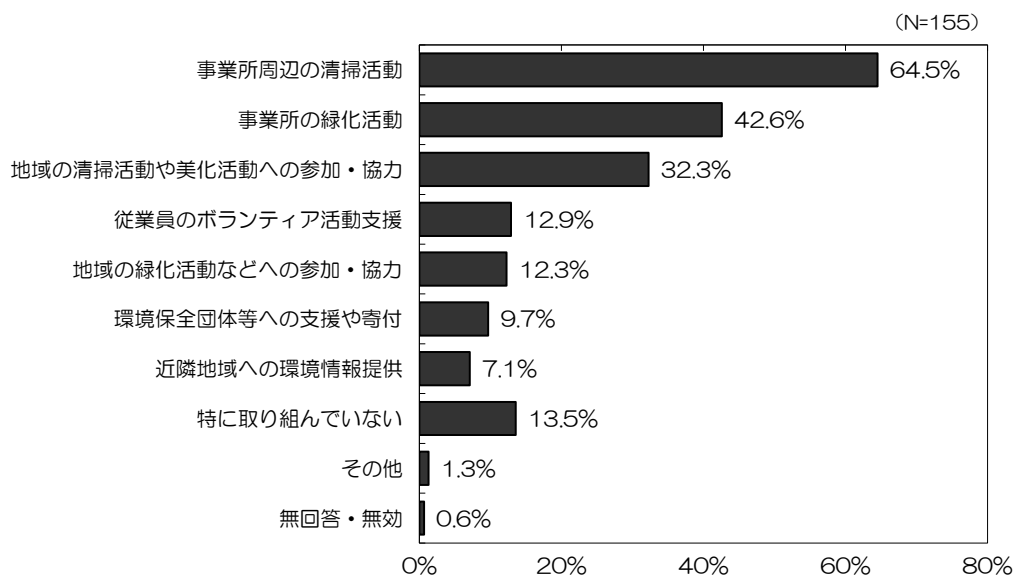


図 3-2-4 地域の環境のために取り組んでいること

### 5) 環境活動に取り組む意義

環境活動に取り組む意義（回答率 20%以上）は以下のとおりであり、回答事業所は、環境保全の取り組みへの意識が高い（積極的）ことが特徴です。

- ・ **企業の社会的責任として、最低限取り組むべきことである（32.3%）**
- ・ **事業者の責務として、事業活動に当然含まれるべきものである（27.1%）**
- ・ **省エネなど、事業活動にメリットのある範囲で取り組みたい（21.9%）**

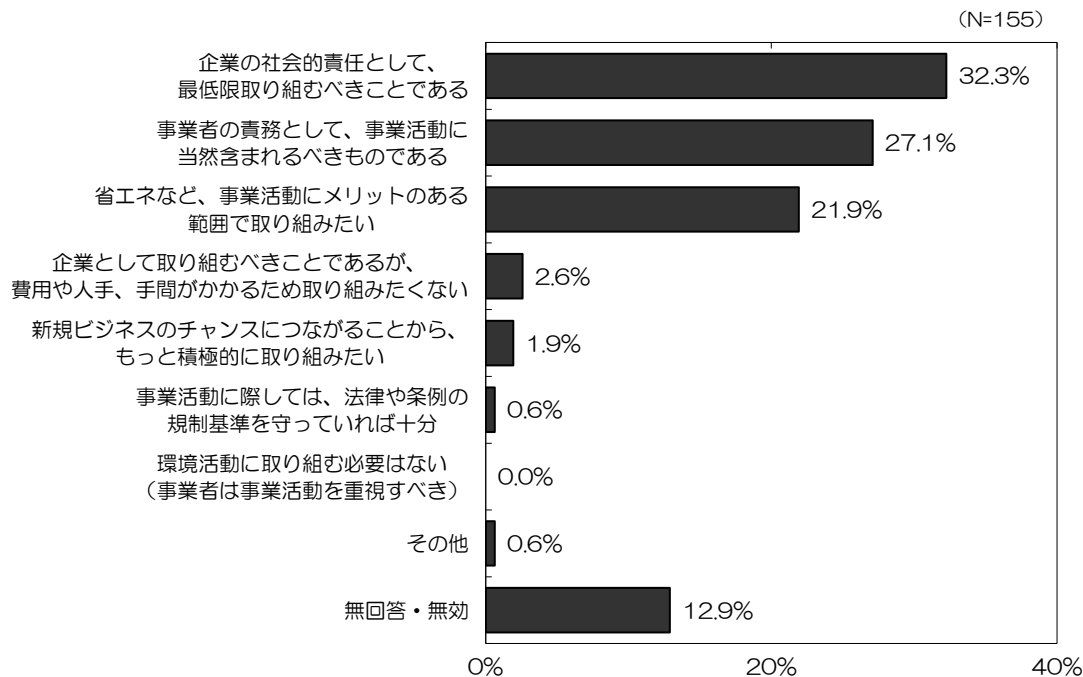


図 3-2-5 環境活動に取り組む意義

## 6) 環境活動を進めるにあたっての課題

環境活動を進めるにあたっての課題（回答率40%以上）は以下のとおりであり、回答事業所の過半数はコストの問題をあげています。

- ・コスト的な問題（58.7%）
- ・従業員の環境に対する理解向上（43.9%）
- ・時間的な問題（40.0%）

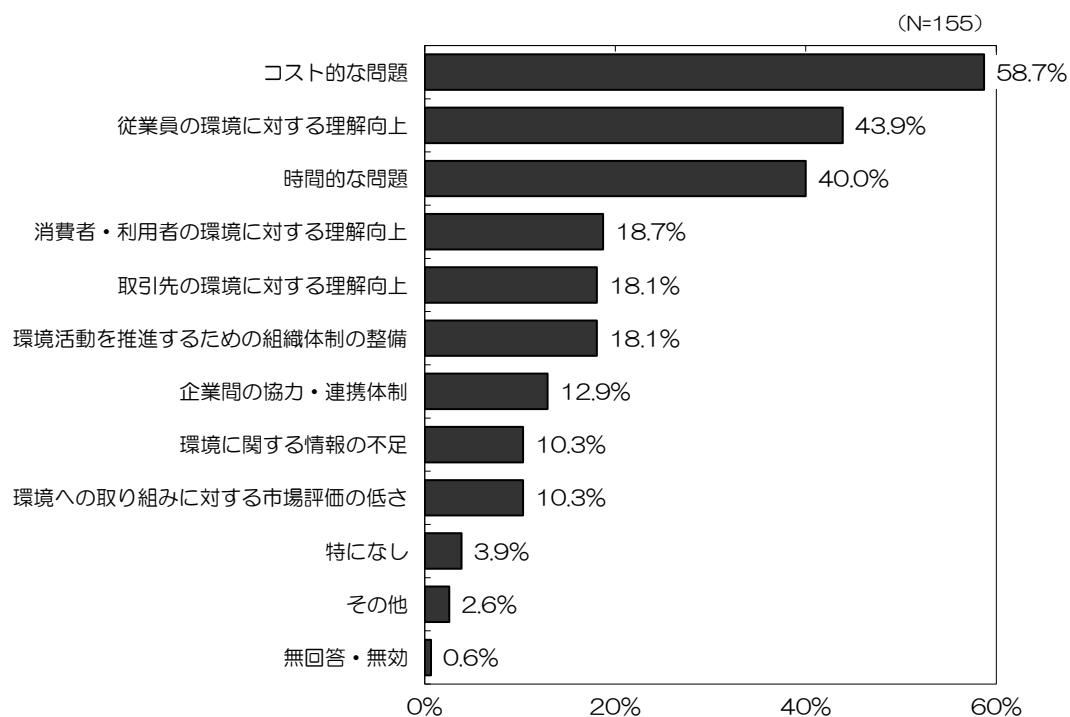


図 3-2-6 環境活動を進めるにあたっての課題

### 3-3 地球温暖化対策の取組状況

#### 1) 省エネ設備機器等の導入状況

省エネ設備等の導入状況は、照明をLEDなどの高効率なものに買い替えることは過半数の事業所で導入済みとなっています。

他については、導入済みが30%前後又はそれ以下となっていますが、導入済みの割合が比較的高いものは以下のとおりであり、製造業の大規模事業所などが該当するものと考えられます。

- ・ 冷水・冷却水ポンプ、空調機等などのインバーター制御 (30.3%)
- ・ 省エネ法の規制による使用エネルギーの削減 (29.7%)
- ・ 太陽光発電システムの導入 (26.5%)

なお、概して回答事業所は省エネ設備等への関心は高いため、何らかの理由により導入できないでいると考えられます。

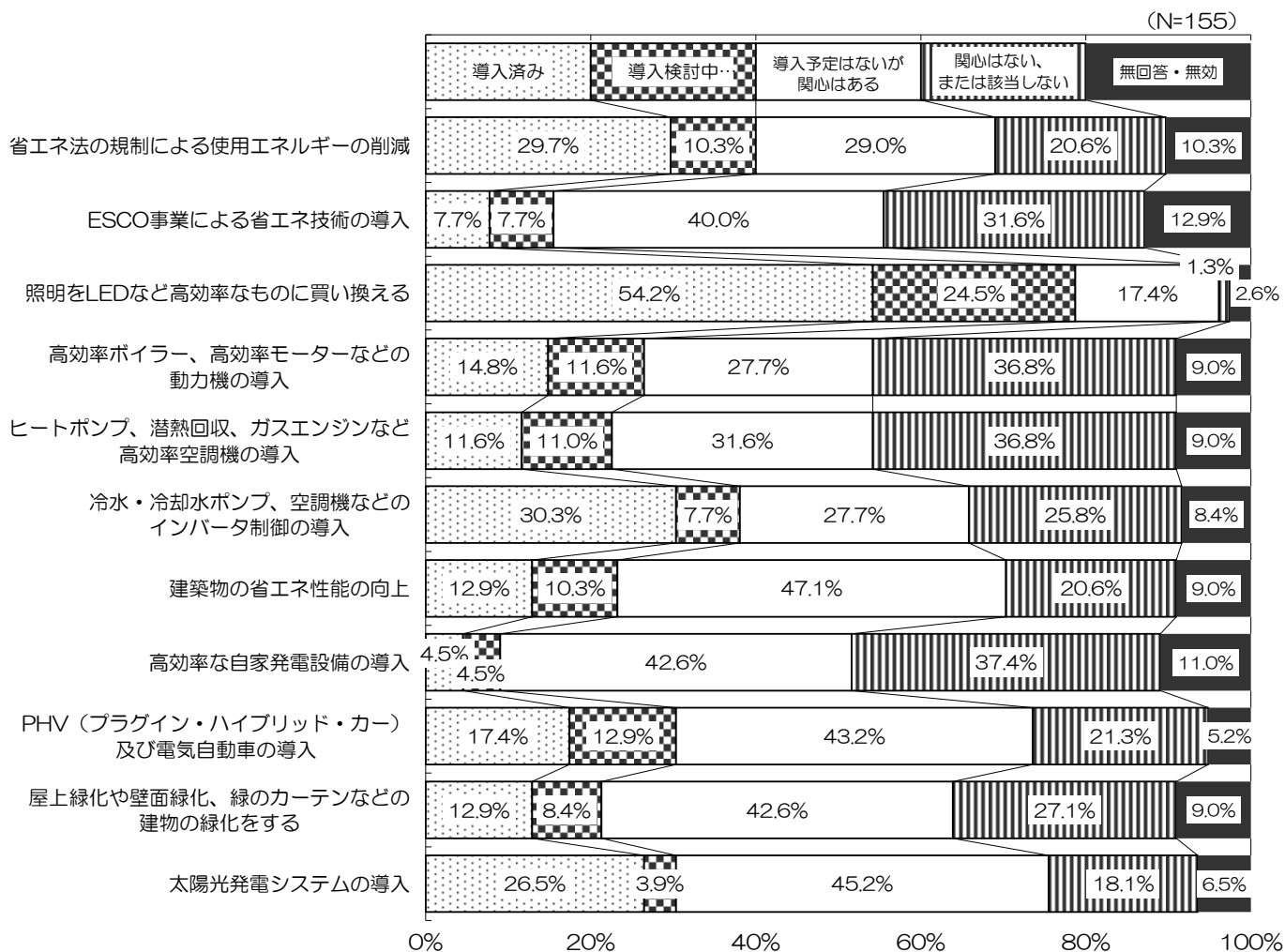


図 3-3-1 省エネ設備機器等の導入状況

## 2) 市が重点的に進めるべき地球温暖化対策

市が重点的に進めるべき地球温暖化対策（回答率 30%以上）は以下のとおりであり、回答事業所の過半数は設備の導入にあたっての融資・助成等をあげています。

- ・ **オフィス・工場への太陽光発電設備や省エネ機器などの導入に対する融資・助成等の充実（56.1%）**
- ・ **渋滞解消など自動車交通を円滑にするための道路整備（35.5%）**
- ・ **ごみの減量・資源化の推進（32.9%）**

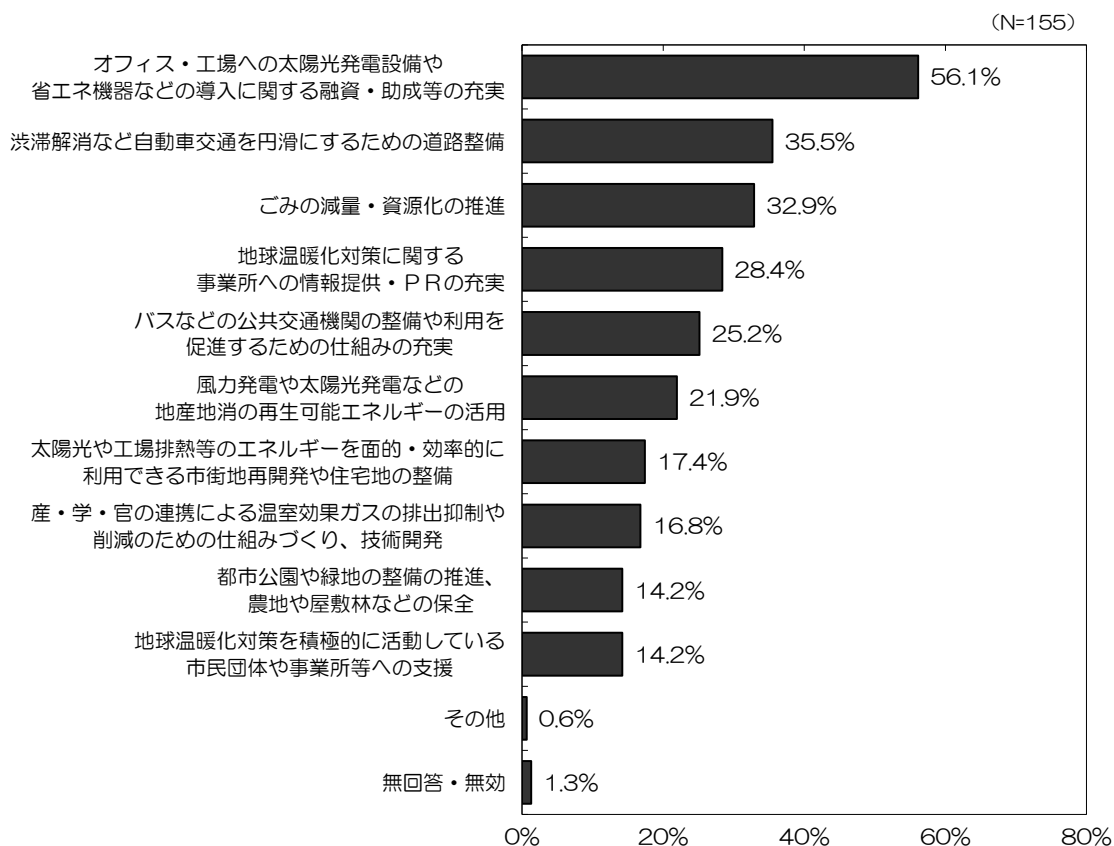


図 3-3-2 市が重点的に進めるべき地球温暖化対策

### 3-4 市の環境・市政について

#### 1) 市の環境の将来あるべき姿

太田市の将来あるべき環境として要望の多いもの（回答率30%以上）は以下のとおりであり、市民アンケートとほぼ同じ傾向を示しています。

- ・ 自然や緑が豊かなまち（52.3%）
- ・ まちなかにごみがなく、きれいなまち（44.5%）
- ・ まちなかの景観がきれいで統一がとれたまち（39.4%）
- ・ 空気がきれいなまち（38.7%）
- ・ 美しい川、水が豊かに流れるまち（34.8%）

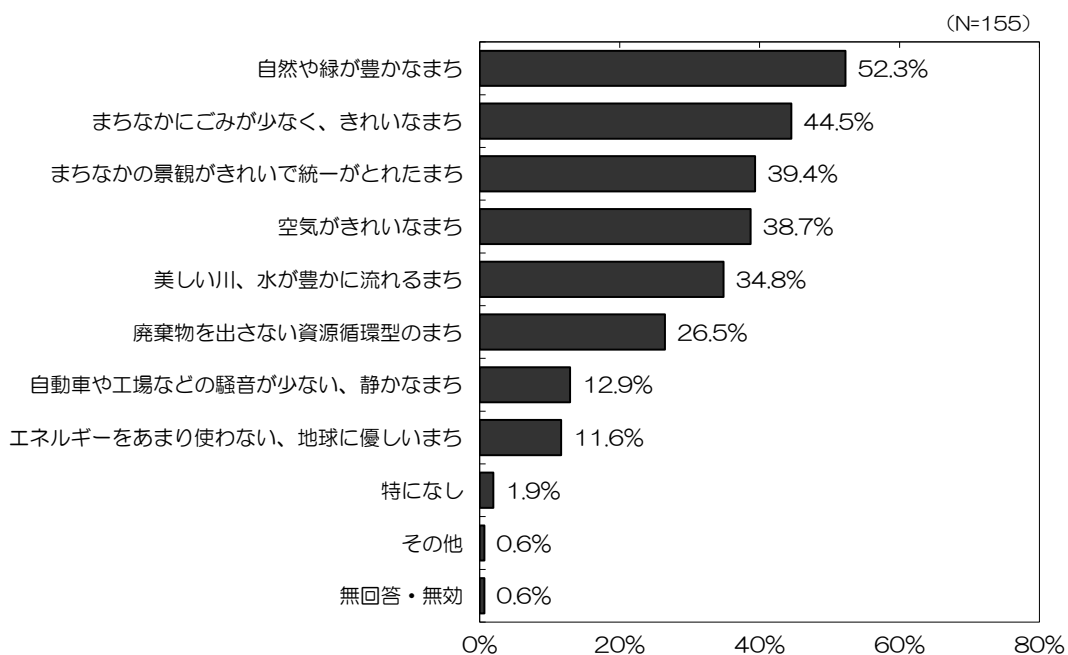


図 3-4-1 市の環境の将来あるべき姿

## 2) 市が重点的に進めるべき環境への対策

市が重点的に進めるべき取組として要望の高いもの（回答率 20%以上）は以下のとおりであり、市民アンケートとほぼ同じ傾向を示しています。

- ・ **ごみの不法投棄対策 (36.8%)**
- ・ **まちの緑化の推進 (34.8%)**
- ・ **ごみの減量・分別やリサイクルの推進 (29.7%)**
- ・ **太陽光や風力など再生可能エネルギーの活用推進 (26.5%)**
- ・ **まちの美化推進 (26.5%)**
- ・ **環境教育・環境学習の推進 (21.9%)**

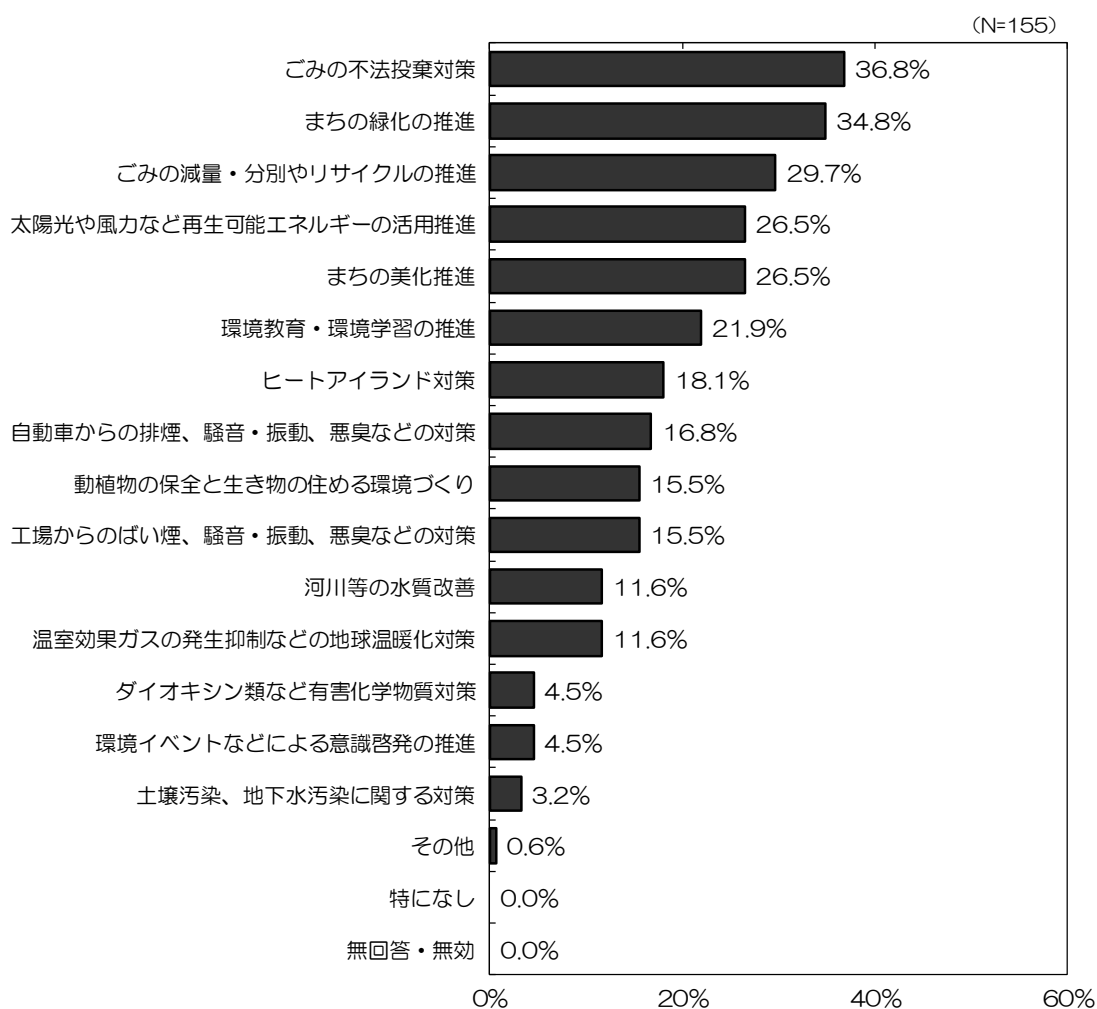


図 3-4-2 市が重点的に進めるべき環境への対策

### 3) 事業所で環境活動を進めるために、行政が実施すると望ましいサポート等

事業所において環境活動を進めるにあたり、行政に望むサポートとして要望の高いもの（回答率30%前後又はそれ以上）は以下のとおりであり、経済的な支援への要望が多くなっています。

- ・ 事業所の環境活動推進に対しての融資や助成制度（58.1%）
- ・ 環境活動を実施している事業所への優遇措置（税制等）（49.7%）
- ・ 市のホームページや広報等での環境情報提供の充実化（34.2%）
- ・ 市民・事業者・行政協働による環境活動推進体制の整備（29.7%）

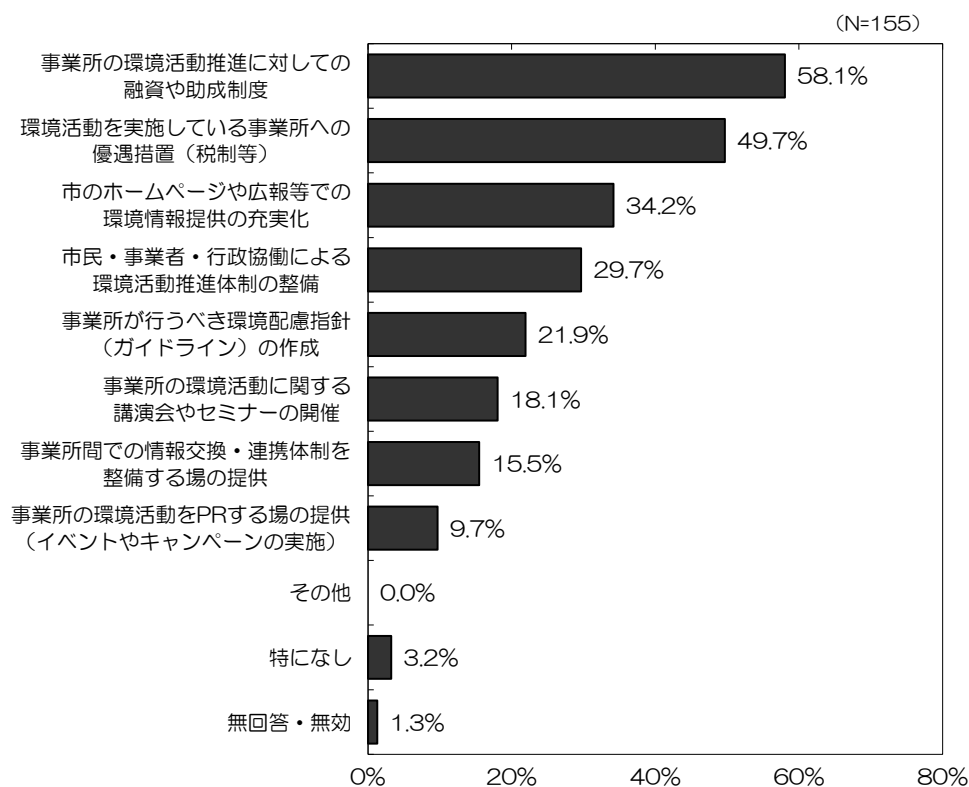


図 3-4-3 事業所で環境活動を進めるために、行政が実施すると望ましいサポート等

### 3-5 事業者アンケートのまとめ

市民と事業者の環境へのニーズ（改善の要望、あるべき将来）は同じであるため、市が今後行う環境関連の施策については、市民向けと事業者向けで基本的方向は同じでよいと考えています。

また、事業者を対象とする支援としてニーズの多いものは、

- ①融資や助成、税制での優遇措置など経済的な支援
- ②環境情報提供の充実
- ③協働による環境活動推進体制の整備

でした。これらのことを考慮した上で、今後の事業者への支援のあり方などを検討して参ります。